

# (総括評価表) 3 熊本地震からの創造的復興

**現状と課題**

熊本地震からの復旧・復興は、県民一丸となった取組みにより、着実に進んでいます。

最重要課題である「すまい」の再建については、仮設住宅入居者の約99%に当たる4万7千人の方々が住まいの再建を実現するとともに、いまだ仮設住宅で生活されている方々についても、自宅の再建が進められています。

また、令和2年(2020年)8月のJR豊肥本線の全線運転再開や、10月の国道57号北側復旧ルート及び現道の開通に加え、令和3年(2021年)3月には国道325号阿蘇大橋ルートが開通しました。南阿蘇鉄道についても、令和4年度(2022年度)末の復旧工事完了を予定しており、阿蘇へのアクセスルートは着実に回復しています。

さらに、阿蘇くまもと空港においては、令和2年(2020年)4月に熊本国際空港株式会社による空港運営が開始され、令和5年(2023年)春の新しいターミナルビルの完成に向けて準備が進むなど、大きな変革を見せています。

一方で、住まいの再建や被災企業等の支援、益城町の復興まちづくりなど、引き続き取り組むべき課題があります。

**取組みの方向性**

熊本地震からの創造的復興の総仕上げに向け、残された課題を確実に解決し、熊本の更なる発展につなげます。

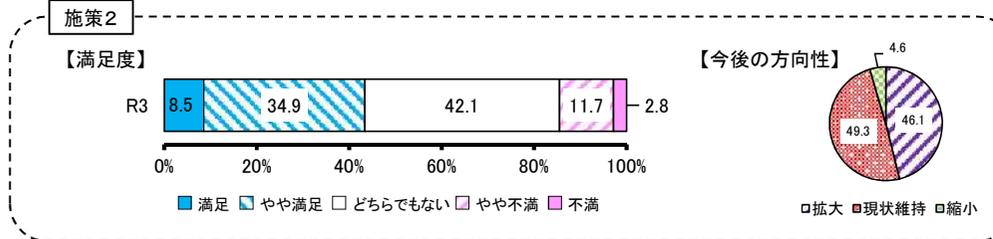
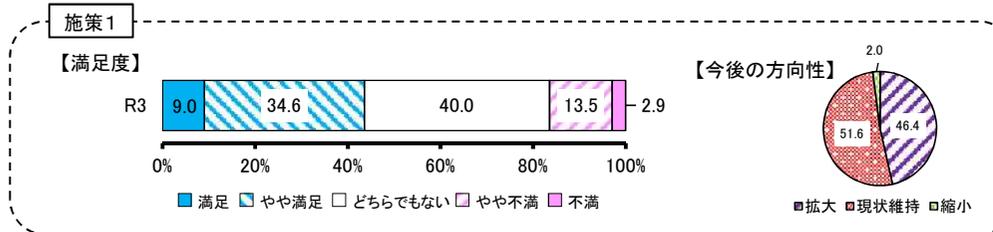
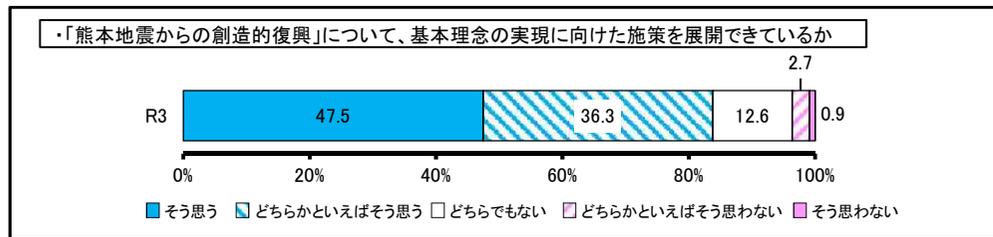
## (1) 実現に向けた施策

<b>施策1</b> 暮らし・生活の再建		
【具体的な施策】	R3	事業数 7 予算額 3,426,909千円
① 「すまい」の再建		
② 被災企業の事業再建		
<b>施策2</b> 創造的復興の推進		
【具体的な施策】	R3	事業数 24 予算額 9,740,632千円
① 益城町の復興まちづくり		
② くまもとの誇りの回復と宝の継承		
③ 阿蘇地域の振興		
④ 「大空港構想」の実現		

## (2) 重要業績評価指標 (KPI) の動向

評価指標	戦略策定時実績値 (R1)	戦略策定時実績値 (4年累計平均)	R2実績値 (R3評価)	R3実績値 (R4評価)	R4実績値 (R5評価)	単位	指標の動向 (策定時との比較)	目標値 (R5)	種類	達成状況
施策2 創造的復興の推進										
益城町市街地部の人口回復率	19%	—	35	—	—	%	↗	50%	累計	
熊本と阿蘇の交通量の回復状況	32,700台/日	—	37,800	—	—	台/日	↗	39,400台/日	単年	
空港周辺における新産業振興策(UXプロジェクト)の取組みに係る企業・団体等の参画数	—	—	12	—	—	%	↗	40企業・団体等/4年	4年累計	

## (3) 県民アンケート



【施策1】くらし・生活の再建

①県独自の「6つの支援策」により、熊本地震におけるピーク時(H29年5月)の被災者47,800人のうち、約99%に当たる約47,400の方が住まいの再建を果たした。

②14市町村の地域支え合いセンターの運営支援や、地域の縁がわ団体への補助率嵩上げ等の支援を行い、被災者の見守りやコミュニティづくりを推進した。

③再建途上にある被災事業者302者へプッシュ型の経営コーディネート支援や、他事業者の模倣となる再建を行う小規模事業者201者に対する創造的復興牽引支援を実施するとともに、グループ補助金の活用により再建を目指す事業者のうち、99.7%の復旧が完了した。

①公共工事の影響で自宅再建ができず仮設住宅の入居期限を迎える方については、市町村と連携し、一人ひとりに寄り添い、全ての方が再建されるまで支援を行っている。

②仮設住宅退去後も市町村や地域支え合いセンターと連携し、被災者の状況に応じて、既存の福祉サービスへの移行や地域全体での見守りを進める。

③個別企業の課題にきめ細かな支援を継続するとともに、終了年度であるR2年度までにグループ補助金の申請ができなかった事業者に対しても、県独自の支援策を講じ、最後の1社まで支援する。



「すまい」の再建(6つの支援策)



地域の縁がわでのサロン活動



健軍商店街における商業施設の復旧状況



【施策2】創造的復興の推進

①益城町の土地区画整理事業では、6月に初めて宅地を権利者に引き渡したのを皮切りに、R2年度内に31画地を引き渡し、権利者の生活再建が可能となった。県道熊本高森線4車線化についても、R2年度内に延べ1027mの歩道が完成し、完成後の街並みのイメージが可能となった。

②熊本市と連携し、熊本城の復旧に取り組み、6月1日の熊本城特別見学通路の開通や、3月末の天守閣の完全復旧を実現した。

③熊本地震デジタルアーカイブにおいては、20万点の写真などの資料を公開した。また、震災ミュージアムでは、中核拠点内に整備した震災遺構(旧東海大学阿蘇校舎1号館・地表地震断層)を8月から一般公開し、R3年3月までに15,000人を超える見学者が訪れた。

④JR豊肥本線や国道57号、国道325号阿蘇大橋ルートが開通したことを受け、地域一体となったキャンペーン「I'm fine ASO」等のイベントを開催した。また、旧東海大学阿蘇キャンパスを次世代型農業の発信拠点としていくことを決定した。さらに、阿蘇の広域的な景観保全のため、阿蘇世界文化遺産登録推進協議会内に「景観保全部会」を設置するとともに、学術委員会や専門部会において、R1年度に提出した世界遺産暫定一覧表に係る提案書のブラッシュアップに着手した。

⑤R2年4月から熊本国際空港(株)による空港運営事業が開始され、同社と連携し阿蘇くまもと空港の感染拡大防止対策や国内線・国際線需要拡大の取組み等を実施した。また、UXプロジェクト※のキックオフ宣言をR2年10月に実施し、基本構想策定に向けた取組みを進めた。(R3年4月策定)

①土地区画整理事業では、引き続き権利者への丁寧な説明を行い同意を求め、仮換地指定の早期完了を目指していく。また、熊本高森線4車線化についても、権利者が生活の再建や生業の継続に不安を抱かぬよう町と連携して丁寧な交渉を進め、交通量が多く事業効果が高い熊本市～惣領交差点付近間のR5年度末までの完成を目指す。

②2037年度の復旧完了に向け、復旧方法の検討を継続するなど、熊本市や国と連携していく。また、熊本城天守閣の一般公開等の情報発信を支援する。

③震災ミュージアムについて、中核拠点施設の整備を着実に進めるとともに、関係市町村と連携し、語り部の養成等を通じ、熊本地震の記憶や経験を確実に後世に伝える。

④阿蘇のアクセスルートの全線開通効果を最大化するため、コロナ禍においても効果的・魅力的なイベントやプロモーションを実施するとともに、旧東海大学阿蘇キャンパスの活用については、実施主体や大学、村と連携し、事業化を図る。また、ユネスコ文化庁から求められている景観保全と開発案件との調和について、景観保全部会における広域的な評価を実施し、世界遺産暫定一覧表に係る提案書の再提出を行う。

⑤熊本国際空港(株)と連携し、チャーター便造成事業や各種プロモーションにより、国内線の需要拡大を図る。UXプロジェクトについては、基本構想を踏まえた基本計画及び実施計画を策定する。また、機運醸成に向けた各種イベントの開催等により、多様なプレイヤーの参画を図る。



県道熊本高森線：完成した歩道を歩く小学生たち



復旧した熊本城天守閣(熊本市提供)



震災ミュージアム中核拠点内の震災遺構



国道57号現道部開通式(R2年10月)



阿蘇くまもと空港(完成イメージ)



「UXプロジェクト」ロゴマーク

※UXプロジェクト  
 ・「U」…「You」「結う」「熊」を表現  
 ・「X」…「Cross」「未知」を表現